

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-22

学校名・団体名	造形さがみ風っ子展実行委員会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	風っ子展における人との交流を創る ワークショップ
〈活動・研究の意義、目的〉 風っ子展におけるアートラボはしもととの連携を発展させ、美術大学や美術関係者のハブ的な役割を担う当施設と、学校教育の現場を繋ぎ、児童・生徒・一般大学生・美術大学生・教諭・学芸員、さらに風っ子展の来場者が交流することを目指すものである。児童・生徒・大学生には、機会を持ちにくい異年齢間の交流の社会体験・共同制作の体験の機会とし、教諭・学芸員には、情報交換・研究の場とする。さらに、当日来場者には作品を鑑賞するだけでなく、ワークショップに参加する機会を提供することで風っ子展をより魅力あるものとし、市民の風っ子展への参加意識を高める。	

<活動・研究報告> (時期、内容、成果や子どもたちへの効果などを記入。A4用紙1~2枚でおまとめください。)

【活動の内容】

相模原市内の小・中学校 109 校が参加する、日本最大規模の野外作品展「造形さがみ風っ子展」において、美大生たちとともに、中学生や来場者が巨大な絵画を制作するワークショップ「キッズゲルニカーみんなでピースをつなげよう」を実施した。これの準備・制作にあたっては、アートラボを中心に美大生や中学校美術部の生徒たちが協働で行った。

東京造形大学の学生は、準備段階から関わり、中学生との準備制作も一緒に行った。これに加え、和光大学・千葉大学の学生もワークショップ当日に運営に携わった。

(1) 風っ子展の準備・制作 [日程：7月～10月]

準備・制作は、ワークショップで使用する、木材パネルの洗浄作業からやすり・塗装作業、さらにその組み立て作業、また、使用するピースの組み立て作業、下絵の写し作業などを行った。(木材は一部廃材業者から提供いただいたものを使用したため、その洗浄作業が必要となった)主に中学校の夏休み期間中に美術部の活動として、アートラボにおいて、準備作業を行ったが、ゲルニカの鑑賞ワークショップや展示鑑賞なども含めた造形体験ができる機会とした。

日 時	参 加 校	参加生徒数	参加大学生数	内 容
7月27日(月) 13:00~16:00	鶴野森中学校	12人	4人	アートラボ紹介/ゲルニカ対話型鑑賞/やすりを使ったワーク/木材洗浄作業
7月30日(木) 9:30~12:00	東林中学校	14人	2人	アートラボ紹介/ゲルニカ対話型鑑賞/ペンキを使ったワーク(アクションペインティング体験)/木材塗装・やすり作業
8月1日(土) 9:30~12:00	東林中学校	4人		同上
8月10日(月) 9:30~12:00	旭中学校	10人	3人	アートラボ紹介/ゲルニカ対話型鑑賞/ペンキを使ったワーク(アクションペインティング体験)/木材塗装・組み立て/学生企画展鑑賞
8月11日(火) 9:30~12:00	旭中学校	7人		アートラボ紹介/ゲルニカ対話型鑑賞/木材を使ったワーク(オブジェ制作)/木材組み立て/学生企画展鑑賞
10月10日(火) 9:30~12:00	相模台中学校	6人		アートラボ紹介/スーパーオープンスタジオ展示鑑賞/プラスチック段ボールを使ったワーク(オブジェ制作)/ピースの切りだし作業
合計	4校	53人	9人	



○ピカソ「ゲルニカ」対話型鑑賞

アートラボのスタッフや美術教員を目指す大学生がナビゲーターを務め、ピカソのゲルニカの作品鑑賞を行った



○木材・電動ドリルを使ったワーク

作業で使用する材料や工具に慣れるためのワークとして木材オブジェをつくった



○ペンキを使ったワーク

作業で使用する材料に慣れるためのワークとしてジャクソンボロックの紹介・アクションペインティング体験を行った



○アートラボの展示鑑賞

アートプログラム「スーパーオープンスタジオ」関連展示「SOMETHINKS」の鑑賞。アートラボスタッフがガイドした



○塗装作業



○土台の組み立て作業



○ピースの切りだし作業

(2) ワークショップの当日 [日時：10月24日(土) 9:00～15:00・25日(日) 9:00～14:00]

ワークショップの内容は、3.5×7.8mの巨大絵画を、500ピースに分割し、その1ピースずつを参加者がコラージュの技法で彩色し、ピースを繋げていきながら一枚の絵を完成させるというものである。

中学美術部の生徒と一般の来場者が参加した。運営は、東京造形大学の学生を中心に、和光大学・千葉大学の学生も加わった。

参加者は、予め用意されたピース(下絵の線が描かれ、色の指定がある)を選び、カラーフィルムやカラー梱包材などのビニール素材から好きな素材を選んで下絵に沿ってコラージュした。ピースをコラージュで彩色したら、土台(下絵が線で描かれている)からピースの場所を探しだして土台に接着し、少しずつ絵が完成されていった。

<ワークショップの様子>



<参加者数>

日 時	24日(土)	25日(日)	合計
中学美術部	73人	88人	161人
大 学 生	8人	12人	20人
来 場 者	350人	250人	600人
総 計	431人	350人	781人

【大学生の感想】

- ・ワークショップという市民や学生の参加の機会は風っ子展全体においても参加した人たちにとっても重要だったと思う(和光大学)
- ・作品の大きさに驚き、皆でつくりあげていくという作業がとても面白かった(千葉大学)
- ・事前の打ち合わせなどにも参加できればより深く活動に関われると感じた(千葉大学)
- ・ピースを一緒に探して、見つかったことをとても喜んで教えてくれる子どもが多く、反応が大きくて参加できてよかったと思う(東京造形大学)
- ・対話型鑑賞ではナビゲーターとして参加し、「初めてこんなに多く発表できた」という感想をもらうことができ、鑑賞の魅力が伝えられたのだと思う(東京造形大学)
- ・昼休憩に他大学の学生と自己紹介をし合い、話し合いの場をもてたので、どのような想いで美術を志しているかなどを話せたのがよかった(東京造形大学)
- ・事前準備に(アートラボの実習生と)共同で制作を行い、細かい感じ方の違い、またそこからどうしたらよりよく活動を行えるかを考えることができた(東京造形大学)

【成果】

- ・ピースをあてはめていく際に大学生と中学生が協力しあったり、中学生が一般の参加者に作り方の手順を説明するなどの交流が見られた。
- ・昼食休憩の時間に東京造形大学、和光大学、千葉大学の学生たちの交流の時間をもてた。
- ・風っ子展において、来場者が参加できるプログラムとして好評であった